

みずほマーケット・トピック (2019年2月22日)

週末版

内容 1. 為替相場の動向 2. 来週の注目材料

誠に恐れ入りますが「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向 (関連レポート: 「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円相場は上値重い展開。週初 18 日に 110 円台半ばでオープンしたドル/円は一時週安値となる 110.42 円をつけたが、米国休場の中で新たな取引材料はなく狭いレンジでの推移となった。19 日は衆院財務金融委員会において黒田日銀総裁が「米国の利下げが経済・物価に対して影響を与え、2%の物価目標達成のために必要となれば追加緩和も検討する」と発言したことで 110 円台後半まで上昇した。しかし、米 10 年債利回りが低下する動きや、関係者談として「通商協議で米国は中国に人民元の安定維持を要求」と伝わると人民元買いドル売りが強まり、ドル/円は 110 円台半ばまで反落した。20 日はアジア時間に五十日のドル需要に 110.90 円超えまで上昇、欧州時間には一時週高値となる 110.95 円をつけた。注目の FOMC 議事要旨(1 月 29~30 日開催分)は「下振れリスクが強まった」、「ほぼ全員が年内のバランスシート縮小停止を望む一方、年内はどのような政策金利の調整が必要か確信が持てない」などハト派な内容だったが市場は織り込み済みで、利上げの打ち止めが明確に示唆されなかったこともありドルは買い戻された。21 日は一連の米経済指標の冴えない結果を受けドルは軟調になったが、米中通商協議などを見据え 110 円台半ばで下げ止まった。本日のドル/円は 110 円台後半で推移している。
- 今週のユーロ/ドル相場は値を上げる展開。週初 18 日に 1.12 台後半でオープンしたユーロ/ドルは、前週末に 1.12 台前半と 11 月中旬に付けた安値水準に迫り目先の売りが一巡したとの見方から自律反発を狙った買いが入り 1.13 台前半まで上昇した。19 日はプラト ECB 理事が「ユーロ圏経済が一段と減速した場合、利上げの時期の調整は可能」と述べたことや独 12 月 ZEW 景況指数が予想を下回る中で一時週安値となる 1.1276 をつけたが、米中通商協議に関する報道にドル売りが進み 1.13 台後半まで急反発。20 日は米金利の上昇を受けて 1.13 台前半まで下落する場面も見られたが、スペインのボレル外相が「EU と英国の修正離脱案がまとまりつつある」と発言しポンドが上昇すると連れて一時週高値となる 1.1371 をつけた。FOMC 議事要旨発表後はドル買い優勢となり 1.13 台前半まで反落した。21 日は予想よりも弱い内容の米経済指標にドル売りが進み 1.13 台後半まで値を上げたが、米金利の上昇を背景に反落。本日は 1.13 台前半で推移している。

今週のおもな金融市場動向 (出所:ブルームバーグ、みずほ銀行)

		前週末	今 週			
		2/15(Fri)	2/18(Mon)	2/19(Tue)	2/20(Wed)	2/21(Thu)
ドル/円	東京9:00	110.54	110.56	110.60	110.58	110.75
	High	110.64	110.62	110.82	110.95	110.85
	Low	110.25	110.42	110.45	110.57	110.56
	NY 17:00	110.47	110.62	110.60	110.87	110.72
ユーロ/ドル	東京9:00	1.1295	1.1295	1.1312	1.1340	1.1347
	High	1.1306	1.1333	1.1358	1.1371	1.1367
	Low	1.1234	1.1279	1.1276	1.1325	1.1317
	NY 17:00	1.1294	1.1313	1.1341	1.1338	1.1333
ユーロ/円	東京9:00	124.85	124.88	125.12	125.42	125.66
	High	124.86	125.28	125.54	125.93	125.85
	Low	124.24	124.65	124.77	125.39	125.33
	NY 17:00	124.73	125.09	125.38	125.72	125.47
日経平均株価	20,900.63	21,281.85	21,302.65	21,431.49	21,464.23	
TOPIX	1,577.29	1,601.96	1,606.52	1,613.47	1,613.50	
NYダウ工業株30種平均	25,883.25	-	25,891.32	25,954.44	25,850.63	
NASDAQ	7,472.41	-	7,486.77	7,489.07	7,459.71	
日本10年債	-0.02%	-0.02%	-0.03%	-0.03%	-0.04%	
米国10年債	2.66%	-	2.63%	2.64%	2.69%	
原油価格 (WTI)	55.98	-	56.45	57.16	56.96	
金 (NY)	1,321.55	1,326.90	1,340.96	1,338.48	1,323.65	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- ・ 米国では、28日(木)に2018年10~12月期のGDP統計が発表される。一部政府機関が閉鎖されていた関係で同統計の公表も遅れており、経済分析局(BEA)によれば、今回は通常で言うところの改訂値が発表される予定。市場では、実質GDP成長率が前期比年率+2.6%と7~9月期(同+3.4%)から減速すると予想されている。減速予想の背景は民間投資の伸び鈍化にある。民間投資は7~9月期に前期比年率+15.2%と前期(4~6月期、同 0.5%)からの反動もあり大きく伸びたが、10~12月期は同+3.6%に鈍化するとみられている。住宅販売は2017年をピークに減少傾向にあり、住宅投資は4四半期連続で前期比マイナスの見込み。また、世界的な景気減速懸念や米中対立に伴うサプライチェーン問題等の不透明要因から、設備稼働率が上昇するなかでも設備投資が抑制されているもようだ。設備投資の先行指標となる、非国防・航空機除くベースのコア資本財受注は2018年後半から伸び悩んでおり、設備投資の鈍化はしばらく続くと見込まれる。他方、消費者支出と政府支出の伸びはほぼ横ばい、純輸出については2四半期ぶりに前期比プラスと予想されている。金融政策関連では、今晚22日(金)にウィリアムズ・NY連銀総裁の講演が予定されているほか、ブロード・セントルイス連銀総裁とハーカー・フィラデルフィア連銀総裁がバランスシート政策に関するパネル・ディスカッションに参加する予定。クォールズFRB副議長もバランスシート政策に関する講演を行う予定。また、26日(火)と27日(水)の両日、パウエルFRB議長による半期に一度の議会証言が予定されている。さらに、ポストニック・アトランタ連銀総裁の講演が28日(木)と3月1日(金)に予定されているほか、28日(木)にはハーカー・フィラデルフィア連銀総裁が景気見通しに関するディスカッションに参加する予定。
- ・ 本邦では、3月1日(金)に2018年10~12月期の法人企業統計が発表される。3月8日(金)に発表されるGDP2次速報値算出のベースのひとつになる。前回7~9月期法人企業統計では、市場予想以上に設備投資が減速。7~9月期GDP2次速報値では設備投資の下振れ(1次速報値:前期比 0.2% 2次速報値:同 2.8%)が全体の伸び率の下方修正につながった。18日(月)に発表された12月機械受注(船舶・電力除く民需)が市場で懸念されていたほどの減速に至らなかったものの、6四半期ぶりとなる前期比マイナスに陥った。法人企業統計で前回(前期比 4.0%)以上の設備投資の減速が確認される可能性がある。

	本 邦	海 外
2月22日(金)	・1月全国消費者物価指数	・ユーロ圏1月消費者物価指数(確報) ・独2月Ifo企業景況指数 独10~12月期GDP(確報)
25日(月)	・12月景気動向指数(確報)	・米1月シカゴ連銀全米活動指数 ・米1月小売売上高 米12月卸売在庫(確報)
26日(火)		・独2月GfK消費者信頼感 ・米2月消費者信頼感
27日(水)		・米12月耐久財受注(確報)
28日(木)	・1月鉱工業生産(速報) ・1月住宅着工件数	・米10~12月期GDP(速報および改訂値) ・米2月シカゴ購買部協会景気指数
3月1日(金)	・1月有効求人倍率 1月失業率 ・2月東京都区部消費者物価指数 ・10~12月期法人企業統計	・ユーロ圏2月製造業PMI(確報) ユーロ圏1月失業率 ・ユーロ圏2月消費者物価指数(速報) ・米12月、1月個人消費支出 米2月ISM製造業景気指数

【当面の主要行事日程(2019年2月~)】

ECB 政策理事会(3月7日、4月10日、6月6日)

日銀金融政策決定会合(3月14~15日、4月24~25日、6月14~15日)

米FOMC(3月19~20日、4月30日~5月1日、6月18~19日)

国際為替部

チーフマーケット・エコノミスト

唐鎌 大輔(TEL:03-3242-7065)

daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です
<http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuohobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2019年2月21日	FOMC議事要旨～「patient」の舞台裏～
2019年2月20日	自動車関税を前に考える日欧の立ち位置
2019年2月18日	停滞する日米欧中銀への期待と為替相場
2019年2月15日	週末版(米小売売上高ショックをどう読むか?～懸念される逆資産効果～)
2019年2月14日	看過できない伊伊関係の悪化～大戦以来の大使召還～
2019年2月13日	ドル/円相場は新常态にあるのか?
2019年2月12日	変わりそうにない対外直接投資の潮流
2019年2月8日	週末版(2018年の円相場の基礎的需給環境～対外証券投資への期待は難しそうな2019年～)
2019年2月7日	次期ECB総裁レースの現状整理
2019年2月6日	ハイマン独連銀総裁も認める景気減速の現状
2019年2月5日	ブレグジット交渉を巡るQ&A～今一度行う現状整理～
2019年2月1日	週末版
2019年1月31日	FOMCを受けて～正常化プロセスの終了～
2019年1月29日	「株価ファースト」という誤解を招きかねないB/S縮小戦略
2019年1月28日	円安リスクの点検～円高のメインシナリオを揺るがすもの～
2019年1月25日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「年内利上げ無し」を暗に認めたドラギ総裁～)
2019年1月24日	日銀金融政策決定会合を受けて～「願望」すら難しい状況に～
2019年1月22日	堅調なユーロ相場の背景にある欧州の減速
2019年1月21日	対米貿易黒字ゼロ計画について～マッチポンプは終わらず～
2019年1月18日	週末版(正常化どころではないECBを取り巻く近況～市場のメインシナリオは転換済み～)
2019年1月17日	英国情勢の論点整理～「壮大な茶番劇」に終わるか～
2019年1月11日	週末版
2019年1月8日	財界トップの相場観と静か過ぎる「波」
2019年1月7日	「バブルは崩れてからがバブル」という考え方について
2019年1月4日	波乱の幕開けの読み方～猪突猛進の円高スタート～
2018年12月27日	3つの論点で要約する19年見通し
2018年12月25日	FRB議長解任騒動について～真正正銘のリスクオフを前に～
2018年12月21日	週末版(FOMCを終えて～新局面への第一歩、為替への影響は～)
2018年12月19日	FOMCの前に読みたい白川元日銀総裁インタビュー
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年11月分)
2018年12月17日	2019年、日米欧のテールリスクはどこにあるのか?
2018年12月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「高まる警戒」と「続く自信」～)
2018年12月12日	2019年、世界経済の勘所～利上げの真価が現れる年～
2018年12月11日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年12月10日	動き出した「メルケル後」のドイツとEU
2018年12月7日	週末版
2018年12月5日	遂に発生した逆イールド～金利に追随する株価～
2018年12月4日	ババ暴動の読み方～2つの懸念～
2018年12月3日	米中首脳会談～2020年まで続きそうな「壮大なマッチポンプ」～
2018年11月30日	週末版
2018年11月28日	メインシナリオへのリスク点検～FRBは来年こそ変わる～
2018年11月27日	続・「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年11月26日	ECB政策理事会議事要旨～TLTRO3の行方～
2018年11月22日	週末版(制裁手続き着手を表明した欧州委員会～イタリアにとっては辛いポリシーミックス～)
2018年11月21日	ノーディールを視野に入れ始めたポンド相場
2018年11月20日	ユーロ圏を巡る資本フローとユーロ相場について
2018年11月19日	イタリア政局を巡る現状と展望～制裁が視野に～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年10月分)
2018年11月16日	週末版
2018年11月15日	メイ首相、最後の戦いへ～「外」から「内」へ～
2018年11月14日	ドル/円相場、現水準をどう理解すべきか
2018年11月13日	四面楚歌のユーロ相場～「5つの不安」～
2018年11月12日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2018年11月9日	週末版(米中間選挙の見通しへの影響～不透明感後退も見通し大勢に影響なし～)
2018年11月8日	メンツを賭けた「7.0防衛」の危うさ～外準減少を受けて～
2018年11月7日	示唆される世界経済の先行き減速懸念～PMIとCLI～
2018年11月6日	露わになるユーロ圏の経済減速～注目されるECBの拳動～
2018年11月5日	米景気改善の「きわみ」～悩ましい貯蓄率の読み方～
2018年11月2日	週末版(ドル相場の近況に思うこと～ドル高の背景と今後の勘所～)
2018年10月30日	「メルケルなきEU」の幕開け～理想主義の後始末～
2018年10月29日	メインシナリオへのリスク点検～「高値波乱含み」という警告～
2018年10月26日	週末版(ECB政策理事会を終えて～不安を煽るECBの強気～)
2018年10月25日	ECB政策理事会プレビュー～再投資方針の行方～
2018年10月24日	「安全資産としての円買い」が勢いづかない理由
2018年10月23日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年9月分)
2018年10月19日	週末版(FOMC議事要旨を受けて～「鏡に映った自分」に踊るFRBの危うさ～)
2018年10月18日	為替政策報告書を受けて～抜きん出た中国の取り扱い～
2018年10月17日	ブレグジットを巡る近況整理～曖昧な危機認識～
2018年10月16日	ユーロ相場と資本フローの近況
2018年10月15日	為替条項要求の冷静な読み方～庇うほど弱点として露呈～
2018年10月12日	週末版(国際与信統計が示唆するドル高リスク～ドル建て債務を如何に軟着陸させるべきか～)
2018年10月11日	NYダウ平均株価の大幅調整について～起こるべくして…～
2018年10月10日	ベースス上昇と米金利上昇とドル/円上昇の関係
2018年10月9日	米9月雇用統計を受けて～「想定外の加速」は継続中～
2018年10月5日	週末版(ECBが迎える「未知の世界」～緊縮下での金融引き締め～)
2018年10月4日	ドイツ化するユーロ圏～求められる正しい陣頭指揮～
2018年10月3日	イタリア政局の整理～今回ばかりはイタリアに言い分も～
2018年10月2日	外国人労働者受け入れ拡大～昔「円高是正」、今「人手不足」～
2018年10月1日	円高見通しが実現していない理由
2018年9月28日	週末版
2018年9月27日	FOMCを終えて～見えてきた転換点～
2018年9月25日	メインシナリオへのリスク点検～オーバーキルを巡る見解～
2018年9月21日	週末版
2018年9月20日	安倍首相による緩和撤退宣言～言うは易し…だが～
	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2018年8月分)
2018年9月19日	市場は「返り血」を浴びるまで分らないのか?
2018年9月18日	基軸通貨ユーロという「見果てぬ夢」～機能面からの再考～
2018年9月14日	週末版(ECB政策理事会を終えて～再投資方針とユーロ高に対するヒントあり～)
2018年9月13日	突然の基軸通貨宣言をどう読むか～ユンケル発言について～
2018年9月12日	続・リーマン10年で注目される次のショックの「芽」
2018年9月10日	リーマン10年で注目される次のショックの「芽」